

今週の News

1. 総会、全国まちづくり会議 2022 の開催案内
2. 第 3 回女性とまちづくり研究会結果報告
3. JSURP 地域主体のまちづくりフォーラム結果報告

■総会、全国まちづくり会議 2022 の開催案内

★JSURP 総会の開催について

今年の日本都市計画家協会の総会（2022 年度第 21 回通常総会）は 6 月 25 日（土）午後開催の予定です。開催場所は新型コロナの感染状況にもよりますが、協会事務所をおく「axle 御茶の水」ビル内の会議室+オンラインのハイブリッド方式を念頭に準備を進めています。

総会に向け、この 1 年間の活動結果と来期の活動方針について各事業担当者の方々に取りまとめをお願いします。詳細は事務局より依頼メールにてご案内します。

今期は理事及び会長等の役員改選期にあたります。来季以降の協会の活動をより魅力的でアグレッシブなものとするため、理事への立候補を検討して下さい。理事改選の具体的な段取りなどは後日協会メールなどでお知らせします。

★全国まちづくり会議 2022 の開催について

今年の全まち（全国まちづくり会議 2022 in 東京）は、以下の予定で開催に向け準備を進めています。

- ◆ 開催時期
2022 年 10 月 8 日（土）、9 日（日）（予定）
- ◆ 開催地
千葉大学墨田キャンパス（墨田区）
- ◆ 開催方法
リアル会議形式+一部でオンライン活用
- ◆ 実施主体及び協力（案）
主催者：認定 NPO 法人日本都市計画家協会
後援：千葉大学、UDC すみだ、向島学会、墨田区等（予定）
協賛：企業各社（今後募集予定）

この全まち 2022 の企画・運営を担う実行委員メンバーを募集しています。地元のまちづくり関係者や大学関係者などとの協働作業に参加してみませんか。

■第 3 回女性とまちづくり研究会結果報告

3 月 8 日、奇しくも「国際女性デー」という良き日、「女性とまちづくり研究会」は、東京大学大学院名誉教授石川幹子先生をお迎えした。

ご講演テーマ、「大地の声に耳を澄まし、心を繋いでいく喜び」野の花、風のそよぎ、季節のうつろいの中で、多くの皆さんと心をあわせ、心豊かなまちを創っていく喜び」と題し、まさに「大地や自然」に寄り添いながら、今なお、精力的に研究を続けていらっしゃる先生のお話をうかがう機会を得たことは研究会にとって、メンバー

にとって大きな励ましとなるひとときだった。

一生涯、現役の研究者でありたいと願い、ご主人との出会いの瞬間「この人と結婚する」と思えたのもご主人が学者であったことが大きいとお話される、何年たっても変わらないその笑顔に「働く女性としてかくありたい」と思う。

1976 年ハーバード大学デザイン大学院ランドスケープ・アーキテクチャを学んでいらした頃のポストンの思い出をはじめ、東京大学大学院農学生命科学研究科にて「パークシステムの成立と展開に関する歴史的研究」で博士号を取得されて以降、「首都圏のほとんどの大学で教鞭と執った」と屈託なくお話される。女性が博士号を取得し、大学の教壇に立つということが難しい時代にあって、さらにシングルマザーで三人のお子さんを育てながらの研究生生活は想像を絶するものがあるが、ただただ頭が下がる。そこから数々の賞を受賞され、日本を代表するランドスケープ・アーキテクト、ランドスケープ・デザイナーとしての地位を築かれた。

相手がどのような権力者であっても、まちがっているものはまちがっていると、忸度なく、媚びなく主張する、でも相手が口先や体裁だけでなく、意志を定めて意見すれば真正面から議論しあい、落とし所を探る。

講演では、正月休みを返上して「神宮外苑の森の伐採樹木」について調査し、その結果を日本イコモス（国際記念物遺跡会議）より提言を発信したことも説明いただいた。私は TOKYO2020 の招致が決まった時から先生が神宮外苑周辺の樹木や成り立ち、明治神宮と繋がるグリーンインフラの棄損に危機感を感じておられたのを知っていたので当研究会が後方支援できればと願ってしめくられた。

参加申し込み 70 名近く、実際の視聴も 53 名と最大規模の研究会となったが、これを弾みに共に研究会のこれからを考えていただける会員の方を募集します。

<問い合わせ先>

佐谷和江 e-mail : satani@kgk-net.co.jp

（文責：三浦）

■JSURP 地域主体のまちづくりフォーラム結果報告

JSURP は地域主体のまちづくり推進事業を実施しています。まちづくりを取り組みたい地域団体や、地域主体のまちづくりを推進したい自治体を対象に、要望に応じたテーマの専門家を講師として派遣し、具体のまちづくりについてワークショップをする活動です。2021 年度は 6 団体、3 自治体を対象に実施しています。

この活動の参加者が集まり情報交換を行うとともに、共通するテーマについて講師から情報提供を受け、地域主体のまちづくりについて意見交換を行う「JSURP 地域主体のまちづくりフォーラム」を開催しました。

<JSURP 地域主体のまちづくりフォーラムの概要>

1. 日時 2022年3月7日(月) 19時～

2. 実施方法 リモート会議形式

3. プログラム

(1) 2021年度の活動の振り返り

(2) 氷見市中央町商店街地区の出前講座の報告

(3) エリアプラットフォームについて(泉英明氏)

(4) まちづくりの資金について(佐藤 正隆氏)

(5) ディスカッション

4. 参加者数(講師を含む) 78人

フォーラムでは、最初に出前講座の開催地域から報告してもらいましたが、いずれの地域も精力的にまちづくりに取り組んでおり、出前講座が良いきっかけになっているようです。



フォーラムの後半では、まちづくりの体制(エリアプラットフォーム)の構築の仕方や、まちづくりの資金の集め方について、講師の方々にレクチャーをいただきました。参加者にとって、有用な情報だったようで、後日、数人からご連絡をいただきました。

地域主体のまちづくりは、地域の独自性が求められ、オーダーメイドです。試行錯誤により取り組まれています。やはり、このフォーラムのような横の情報交換が必要であると感じました。

■「みんなのまちづくりノート」の紹介

JSURPでは、まちづくりを始めた人が最初に読む本として、「みんなのまちづくりNOTE」を作成し、ホームページで公表しています。

各テーマの専門家に、地域住民の立場で読んでもらえる視点で、10ページ程度でコンパクトにまとめていただいています。

これまで、以下の7テーマを公表してきました。

1. まちなかの活性化
2. 住宅地のマネジメント
3. 公共空間の活用
4. 復興まちづくり
5. 防災まちづくり
6. まちの拠点づくり
7. 景観まちづくり

これらに加えて、2021年度は、2つのテーマのまちづくりNOTEを作成しました。

8. ウォーカブルなまちづくり(園田 聡 著)

「ウォーカブル」なまちづくりとはどのようなものでしょうか? コロナ禍以降、建物からはみ出して、「みち」を活用したカフェやレストランの営業、イベント開催などに注目が集まっています。より多くの場面に活かすことで、まちが賑わい魅力が増すだけでなく、多世代交流のきっかけ、ひいては高齢者の孤立防止などさまざまな可能性が広がるでしょう。これを実現するために、誰がどのように動けばいいのか、どのような制度を活用するのかなどはまだ知られていないのが現状です。そこで、まちづくりNOTE vol.8では、「ウォーカブル」なまちを目指す最初の一步をまとめました。ぜひ、ご一読ください。

9. 地域主体のエリアマネジメント(堀江 佑典 著)

エリアマネジメント。この言葉は「地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者などによる主体的な取り組み」と定義されており、『地域に関わるみんなでイメージを描き育てていく、自足的なまちづくり』を意味しています。このVol.9では、エリアマネジメントの取り組みを、5つの「共」によるステップに分け、分かりやすくご紹介していきます。この5ステップを参考に、みなさんもぜひ、チャレンジしてください。



9冊のまちづくりNOTEは以下のサイトからダウンロードできますので、是非、ご覧ください。

<https://www.jsurp.jp/machidukuri-note/download/>
(文責: 内山)

■4月の予定

- ①4月 6日(水) 全まち実行委員会
- ②4月 16日(土) 静岡支部/大賞受賞視察ツアー
- ③4月 19日(火) 199理事会